

# 女性解放

シリーズ～福音の力～

2020/05/10 母の日礼拝

## ルカによる福音書10章38～42節

一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくださるようにおっしゃってください。」

主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

# 女性を多く取り上げたルカ

- **何と言っても母マリアから始まっている**
  - マタイはヨセフが中心＞主の使いの出現先
  - マリアを励ますために用いられたエリサベト
  - 羊飼いの訪問後、「しかし、マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。」2:19
  - 少年イエス様に対して語ったのもマリア(2:48)
  - イエス様の系図：マタイはヨセフの、ルカはマリアの系図だと思われる(ダビデ＞ソロモン／ナタン)
- **ルカだけが記している癒しのエピソード**
  - ナインのやもめの一人息子のよみがえり(7:11)
  - 18年間腰が曲がったままだった女性の癒し(13:10)

# 女性を多く取り上げたルカ

- 女性を主人公にしたたとえ話・エピソード
  - 無くした銀貨のたとえ (15:5)
  - やもめと裁判官のたとえ (18:1)
  - やもめの献金 (21:1) / マルコにもある
- イエス様に仕えた女性たち(女弟子?)
  - 「悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア、ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。」8:2-3

# 男尊女卑の時代背景

- **世界は最近まで男尊女卑だった**
  - 日本でも女性に選挙権が与えられたのは1945年
  - 「女子供」という言葉は、女性蔑視の象徴
- **聖書の時代のユダヤにおける女性**
  - ほとんど人権は認められていなかった
  - 子どもを産む道具・労働力・簡単に離婚される
  - 律法学者やラビの弟子になることもできなかった
- **そのような社会であったのに**
  - イエス様は女性たちを弟子のように扱われた
  - 女性たちを癒し、用い、教えられた

# マルタとマリア

- **ベタニアに住んでいた一家**
  - エルサレムの南東3キロの町
  - イエス様一行が滞在した
  - 弟のラザロはイエス様によってよみがえらされた
- **対照的な二人**
  - マルタ:「いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていた」> **女性として模範的**
  - マリア:「主の足もとに座って、その話に聞き入っていた」> **身勝手・子どもっぽい**

## マリアを責めたマルタ

「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」

- 妹に対するいらだち

- 自分だけ働かせて何もしない妹に腹が立った
- 女性として当然

- イエス様に対するいらだち

- マリアを好きにさせているイエス様に対しても腹を立てている
- イエス様を無神経だと決めつけている



# マリアを責めたマルタ

「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

- マルタに対する思い遣り

- もてなそうとしているマルタの心情を理解している

- 必要なことは一つだけ

- 神の言葉を聞くこと以上に重要なことはない
- マリアは女性としては失格かもしれないが(人間的には)、正しい選択をした

# イエス様による女性解放

- 女性たちへの憐れみ
  - 特にやもめに対して
  - ルカは母マリアから話しを聞いたのではないか？
- 女性も神の業に参加させる
  - 母マリア・エリサベト
  - イエス様の弟子として働く
- 女性としての役割からの解放
  - 「女性の役割」にこだわる必要はない
  - 神様に近づく権利は男女平等である！